



ピクタインダオン

(おきみがりにぼし)

第 23 号

発行日 2019年11月20日

発行人 矢代 しず

秋田市御野塩7-1-29-305

水

しずかな広がりを見せる雄物川

水鏡に自分の姿をうつす

さざ波とわたしの翳が共振し

水の記憶が甦ってくる

雄物川の源を探ったことがあった

岩間から流れでる水の

みずみずしい眼

水に惹かれたはじまりだった

川底を流れる水の音を聞く

母のやさしさにも似た清らかなラルゴ

心しずまる喜びが心の裡にひろがる

水源の糸は勢いと豊かさをくわえ

水の時間を旅し

渺茫たる海に帰っていく

徒然のエチュード 20

①

テーブルに

チョコが一個

冷蔵庫に何度も取りに行く

これも

ウォーキングのひとつ

②

雨男と晴れ女が

一緒に登山

さて、天気はどうなる？

③

八月八日

午後十一時五十九分

体内年齢 五十三歳

八月九日

午前零時

体内年齢 五十四歳

④

詩ができない！

でも

できてるじゃないか

がわ・し・

⑤
起立

(矢代) レイ

着席!

⑥

看護師—眠れますか?

患者A—眠れません!

患者B—ウソー!!

それはわたしのセリフよ

患者C—イビキにも負けず

寝言にも負けず

そういう自分が

好き

【詩の勉強会】

去る九月十五日(日)、あきた文学資料館において、「第六回 ピッタの会」勉強会を開催した。講師には見上司氏をお迎えした。演題は、「銀河鉄道の旅へ」。

参加者は講師を入れて十七名。内、初めての参加者は七名であった。

●講演内容

☆第一部 オープニング

「北十字銀河ステーション」

☆第二部 「銀河鉄道の旅へ」

☆第三部 「星を探す」

☆第四部 朗読会

「南十字銀河ステーション」

*残念ながら機器のトラブルにより、影像が映らないハプニングがあった。途中、順番を変えて進化した。参加者紹介と朗読を中に入れた。

また、三部では講師が用意した見上司小詩集「星を探す」を、講師を含め数人で朗読した。第四部は時間がなくてできなかった。

見上氏が一ヶ月もかけて準備してくださったのに、至極残念であった。見上氏にはリベンジしていただきたく、交渉中です。

*今回、詩を持参してくれた方に、次回のピッタの会で朗読・鑑賞の時間を設けます(ただし、朗読した人は除く)。時間の関係上、一人二編(四十行以内の作品)です。ご協力お願いいたします。

● 質疑応答

● アンケートより

・ 機器が故障するハプニングがあつて、却ってピ

ットドで立体的な講演になった。小詩集「星を探す」の素晴らしさに驚嘆した。先生の頭の柔軟さは素晴らしい。現代の宮沢賢治と言つてもよい。詩の分析の話も大変興味を惹かれ新鮮だった。朗読もコンサートやライブのように、熱気が伝わってきた。判り易いものだけでなく書きたい事を書く、というのも一つの活路だろう。

・ 初めての参加でした。詩について多くの先輩方と学びあう空間を用意してくださり、ありがとうございました。詩の分野、知らないことが多く飛び込めて良かったです。作品づくりに活かしていきたいです。

・ 詩を愛好する会の雰囲気は、私に合っているように思います。都合つく限り出席したく思います。

・ 宇宙については私もとても関心があり、詩にもたびたび登場します。悩める部分、内容、共感するものがあります。詩の長・短は、私は短い方が好き。性格的なものもあるかもしれないと思う。

・ 星とか宇宙とか「詩」として考えたことがなか

ったので、なかなか書けませんでした。でも、みなさんの意見を聞いて、もう少し広く深く考えることができるような気がしました。参加して良かったです。いつも身近なものしか目がいかなかったので、視野が広がりました。

・人間らしい詩心を教わりました。

・見上さんをはじめ知りました。様々な人の詩に触れ、触発を受けました。私も自信をもつて詩作していければと思います。最近、色々な人の詩と出会い触発を受けています。また自分の詩を作る上での重要なヒントになっています。様々な様式の詩に挑戦して行きたいと思います。

・またもや勉強不足を痛感しました。「病の星」は、前回のピッタの会で学んだことを少しだけ実践してみました。長い詩を縮めることの難しさを感じたり、適切なことばがでてこなかったりして…。むすびの要は、書きたいことを書きたいように書いて、あれこれ言ってもらおうと思います。

・初めて参加させて頂き、皆様教師だった様で、

私みたいな人はついて行けないんじゃないかと思いました。

・私には少々むずかしい勉強会でした。宇宙に遊べたことは、嬉しかったです。



【高橋よしえ句集】

「ピットインダウン」第2号の母の句集に、次の一〇三句を追加する。水無月俳句会四十二句、例月句会四十九句、芸文祭俳句会六句、新年俳句会四句、忘年句会二句。

これまで掲載した分と合わせて母の句は、二六二句となった。

久しぶりに母の句碑を見に行つた。水無月俳句会で昭和六十三年長月に浅舞公園に建立したものである。八名の句が刻まれているが、みな鬼籍のひとつとなつてしまった。

〈コスモスの丈より低く老いにけり〉

刻まれた母の句も風化し、字が所々薄くなつていた。しかし、母の句は、生きた証として残る。

彼岸の母は、どんな句を詠んでいるのだろうか。

【水無月俳句会】

・第583回 平成16年9月10日
明日なきと言ふは秋蟬のみならず
コスモスの影をとどめず風吹けり

・第584回 平成16年10月9日
地に触れし色深めけり唐辛子
稲刈や雲のひとつも欲しかりき
一と雨のあとうるわしきななかまど

(第585回 平成16年11月 母欠席)

・第586回 平成16年12月11日
縄使うことのあまたや冬はじめ
樹氷みな身軽になりぬ山眠る
村と村をつないで遠し刈田道

・第587回 平成17年1月8日
足早に人が追い越す年の暮
冬ざれやどの筆ペンもかすれ文字
冬ごもり何かすること一つあり

・第588回 平成17年2月12日
褪せし書に朱の一線や冬ごもり
花粉期や熟睡せしや冬ごもり

・第589回 平成17年3月12日
先々に行く街路樹の雪の花
四温晴れ思わぬ人から贈物
啓蟄や進路決めたる子の歩幅

・第590回 平成17年4月9日
三面鏡開く三面花曇
老いの背に小さきリユック春の旅
絵手紙に蜜ためている冬りんご

・第591回 平成17年5月14日
主なき庭の雑草桜咲く
引き直す道の白線つばめ来る
花筏鯉がこわしてしまいいけり

・第592回 平成17年6月11日
草餅や体内時計に合わせけり
峠茶屋遠峯よりの風薫る
山頂に彩添えにけり春紅葉

・第593回 平成17年7月9日
左右なき軍手軍足草むしる
採血のあとの滲みや遠郭公
尺蠖や歩幅年ごとせまくなり

・第594回 平成17年8月6日
彫に指入れ丹念に墓洗う
我が影の重なり歩む薄暑かな
墓洗う行年若き兵の墓

【例月句会】

・第595回 平成17年9月10日
上げ膳据え膳手持無沙汰や今朝の秋
竹の春宴さやけき米寿かな
さるすべり目隠し垣の低からず

・第596回 平成17年10月8日
絵手紙の野菜いろいろ豊の秋
地つづきに他界のありてこぼれ秋
米寿の坂越えし釣瓶落としかな

・第597回 平成17年11月12日
青天の老の歩幅や落葉道
面会のなき出逢なり石路の花

・第598回 平成17年12月10日
しぐるるや針孔に糸通す窓明り
石仏銀杏落葉の浄土あり
もちまへの彩をつくして烏瓜

・平成15年3月22日
昨日今日生きてはかなき薄氷
わだかまり解けてゆうべの水温む

・平成15年4月26日
芽吹かんと声を恠えて雑木山
鳥の声風の色にも余寒あり

・平成16年8月28日
鳳仙花触れてはじけし反抗期
迎え火や闇が黄泉の香ただよわす

・平成16年11月27日
小春の空どこへかけても留守電話
すすぎ物太陽を追って庭小春

・平成17年1月22日

鍵穴の闇をまさぐる悴かしこむ手

寒暮濃くなりて煮つまる煮豆かな

・平成17年2月26日

日の雫こぼして氷柱やせにけり

たぐり寄す遠くの記憶や冬の夜

・平成17年3月26日

春立つや故なく痒き耳の奥

コーヒーのミルクの渦ひなたや春日向

・平成17年4月24日

山の湯の混み合えりけり山笑う

・平成17年5月28日

日の目見ず風の荒きや若葉寒

人はみな明日への呼吸木々芽吹く

・平成17年6月25日

夏休み孫この馬となる好好爺

むずかる子機嫌なほしやさくらんぼ

・平成17年7月23日

思ひまた昔に戻り濃こ紫陽花

風もなく大空重し草いきれ

・平成17年8月27日

惜しみなく黄菊白菊棺の中

遠雷や花よ選るように杖を買ふ

・平成17年9月24日

芒の穂風の梳くままなすがまま

今朝の秋快眠の覚めて朝厨

・平成17年11月26日

山頂やまは白銀裾野は錦秋かな

赤き実や雪待月も月末なり

・平成18年2月25日

立春の二字に起居たちいのやすらげり
人心計りがたしや二月尽

・平成18年3月25日

風花や競いし友の早や逝けり
涅槃西風あらかた読めぬ書道展

・平成18年4月22日

春耕や年の重さにふれる鋤
掃除機に音のつまりし余寒かな

・平成18年5月27日

人はみな明日へ呼吸木々芽吹く
母の歳倍余も生きて菊根分け

・平成18年6月24日

風薫る看取りの窓を半開き
緑蔭おうなや今昔語る媼達

・平成18年7月22日

引き返す道のなかりし合歡の花
顔合すだけの付き合い花八ツ手

(平成18年8月26日 母欠席)

・平成18年9月23日

散りごろの萩にやさしき米寿の賀
今日ありて明日もありなむ秋の蟬

・平成18年11月25日

杉鏝の際だつ中や里紅葉
式部の実色づくころの別れかな

・平成19年2月24日

何時散るや当もなき日の冬紅葉
つつがなく三訓守りて冬ごもり

・平成19年3月24日

談合の合わざりし後隙間風

春の雪非行をさとす地獄絵図

・平成19年4月28日

口ほどにゆかぬ老の身山笑う

ゆくゆくほどの子と住むや雨蛙

【芸文祭俳句会】

・平成16年10月23日

南瓜煮て黒く焦げたる鍋の底

青空に雲のさざなみ曼珠沙華

・平成17年10月15日

青空に交尾飛行の赤とんぼ

夕月や旅の名残りの写真帖

・平成18年10月21日

秋深し癒える術なし老いの足

しんしんと肩より覚めし今朝の霜

【新年俳句会】

・平成18年1月28日

米寿なほ夢を余白に初日記

来し方の萬感こもる除夜の鐘

・平成19年1月27日

つつがなく生きし恵みや老の春

寒修行僧の鈴かねの音今昔

【忘年句会】

・平成18年12月23日

歳の瀬や地方紙に包む母の味

一と撞つきの鐘の余韻や竹の春（西法寺）

【ご案内】

矢代レイ 詩展 ― 詩に支えられて ―

日時 12月16日(月) ～ 12月30日(月)

時間 9時～15時 無料

場所 秋田銀行本店 ロビー

秋田市山王3-2-1

なお、土曜日、日曜日、祭日はお休みです。

お問い合わせは、矢代レイまで。

☎ 090・1935・1180

【あとがき】

駒木田鶴子氏から、『詩と思想 詩人集2019』を頂戴した。四三五名の詩人たちの魂の声がかきこえる。

*

生家もお墓もなくなり、心はがらんどろに――。
そんな時、長姉が持っていた母の句会の資料をもらった。中には母の句一〇三句。老いの坂を下りはじめた母の目となり耳となった長姉も、いつしか母と一緒に句作。朱を入れた句稿から、親子の会話がきこえてくる。パソコンに打ち込む作業は母との再会、実に楽しかった。

*

最近、うれしいことがあった。魁新報の「えんぴつ四季」に度々掲載される方と、偶然お目にかかった。かなり前からのファンである。想像していた通りの知的な女性。〈書くこと〉が趣味の私たちは、時折メールをするようになった。この出会いを大切にしたい。

